

# 編集後記

この号が出るころには秋の涼風が吹いていることと思いますが、編集後記を書いている今（8月はじめ）は暑い日が続き、いいかげん夏ばて気味です。室温で実験する必要があるというのをいいわけにエアコンをフル稼働させ、地球温暖化に一役かっています。

閑話休題（この文章全体がむだばなしのようなものですが）、近ごろ、世の中のいたるところで上意下達のシステムが幅をきかせているような気がします。もっとも上意下達という言葉のかわりにトップダウンと呼んでいるようですが、まあ中身は同じことのように思われます。「トップダウン」の良いところは物事の決定が迅速になることで、このあたりの歯切れの良さがもやもやした世情にうんざりした人々にもてはやされているのかもしれない。その反面、独裁に陥る危険があり、そうなれば一部の人々の意見だけが通ることになり弊害が生じます。「トップダウン」と「ボトムアップ」のどちらが良いかは一概に論じられない問題ですが、短期的、表面的な効果だけで判断すべきではないでしょう。特に学問の世界では、一

見非効率にみえる多様性が重要だと私は思うからです。

最近、科研費の審査方法が変更になりました。従来の学会推薦の審査委員による審査から、学術振興会の主導による審査になったわけですが、これも「トップダウン」の流れにあるもののような気がします。新しい審査方法のゆくえはまだわかりませんが、決して効率のみを優先し学問の多様性を損なうようなことにならないことを願っています。そのためには、私たちが審査の過程に常に注目し、透明性と公正さを要求し続けていくことが重要なのではないのでしょうか。

今月号、中島先生の「イオンチャネル小史」はHodgkin-Huxleyに始まるイオンチャネル研究の発展をほんとうに生き生きと描きだしています。少しお先にわくわくしながら読ませていただきました。できることなら、“brief history”の完全版として、詳しく書かれた歴史を読みたいと心から思いました。

（小西真人）

\*編集執行委員

## 編集委員

- |                          |                        |
|--------------------------|------------------------|
| *岡田 泰伸 (一般生理) [編集・広報幹事]  | 佐々木和彦 (神経生理) [東北]      |
| 赤須 崇 (神経生理) [九州]         | *定藤 規弘 (心理生理)          |
| *入来 篤史 (感覚, 運動, 高次中枢)    | *渋谷まさと (呼吸・循環)         |
| *河西 春郎 (神経・分泌生理)         | 菅屋 潤壹 (栄養・代謝・体温) [中部]  |
| 川上 順子 (感覚)               | 関野 祐子 (神経化学)           |
| 北澤 茂 (運動, 認知)            | 高井 章 (平滑筋, 自律神経) [北海道] |
| *久保 義弘 (細胞分子生理)          | 辻岡 克彦 (循環) [中・四国]      |
| 窪田 隆裕 (腎・体液) [近畿]        | 美津島 大 (内分泌) [関東]       |
| 小泉 周 (感覚)                | *村上 政隆 (膜輸送)           |
| 小西 真人 (筋) [東京]           | 吉岡 利忠 (体力)             |
| *小山 なつ (感覚, 神経生理) [HP担当] |                        |

日本生理学会事務局：〒113-0033 東京都文京区本郷3-30-10 布施ビル  
TEL：03-3815-1624 FAX：03-3815-1603（勤務時間10：30～18：30）  
E-mail：psj@qa2.so-net.ne.jp  
URL：http://wwwsoc.nii.ac.jp/psj/